

タイ人日本語学習者における漢字学習意識 —学習困難点及び情意的側面について—

ブッサバー・バンチョンマニ— (カセサート大学)

1. はじめに

漢字学習が日本語学習の中で習得しにくい項目の一つであることは周知の事実である。これまで日本語学習者を対象に漢字学習意識の調査がいくつか報告されているが、非漢字圏のタイ人日本語学習者を対象にした研究はまだ数少ない。

そこで本報告は、非漢字圏であるタイ人日本語学習者を対象に学習意識について調査し、その結果を漢字教育に反映させることを目的とする。

2. 従来の研究

2.1 学習困難点：従来の研究によれば、漢字の難しさは字形、読み、意味、用法の情報量が多いことに起因する(加納:1994)。その中でも学習者にとって、読みは多様で難しく(石田:1984、下瀬川:1984、チャイヤケッタナン:2008、柳田:2011)、書き・字形は複雑、または類似していて難しい(石田:1984、リドワン:2011)とされる。このように、読み・字形が漢字学習を困難にしていると言及する研究は数多くあり、加えて、漢字の最も学習困難な点は記憶保持であると報告する研究もある(豊田:1995)。

2.2 情意的側面：漢字学習は日本語学習の全体に欠かせないものである(ブシマキナ:2013)が、漢字は「自習できる」と考えている学習者が少なくない(清水:1993、豊田:1995、ガヤトゥリ:2006)。漢字学習は面白いと認識されており、既習漢字数が増えるにつれて、学習意識が良い方向に変化するという情意的側面に焦点を当てた報告がある一方、逆の報告もある(ガヤトゥリ:2006)。

3. 研究方法

3.1 調査対象：

調査対象者はタイの首都圏の中等教育機関および高等教育機関で初・中・上級日本語を学習している生徒(228名)と学生(445名)計673名である。日本語能力の内訳はN1:20人、N2:52名、N3:157名、N4:207名、N5:237名である。

3.2 アンケートの内容：

漢字学習上の困難点に関しては形、読み、意味、用法、記憶に関するアンケートを行い、漢字学習に対する情意的側面に関しては積極的な側面と消極的な側面に関するアンケートを行った。

漢字学習上の困難点については「問題ではない」(0)、「あまり問題ではない」(1)、「非常に問題である」(2)、漢字学習に対する情意的側面については「そう思わない」(0)、「あまりそう思

わない」(1)、「そう思う」(2)のそれぞれ3段階で回答をしてもらった。その結果を次節で数値に換算している。

4. 調査の結果と考察

4.1 学習上の困難点

4.1.1 全体的な傾向

表1 漢字の学習困難点(上位順)

順位	項目	平均値	順位	項目	平均値
1位	⑥記憶保持	1.81	5位	③多義性	1.62
2位	⑤多数性	1.70		⑦読み方の類似性	
3位	④多読性	1.68	7位	⑨使用困難性	1.36
4位	②字形の類似性	1.64	8位	①字形の複雑性	1.34
			9位	⑧記憶時間が長い	1.32

2点満点ですべての項目の平均値は50%の1.00を超えており、全体的に学習者にとって漢字学習が困難であることが判明している。その中で最も数値が高いのは「⑥記憶保持」(平均値:1.81)で、ついで「⑤多数性」(平均値:1.70)である。最も困難度が低い「⑧記憶できるまで時間がかかる」(平均値:1.32)でも平均値が50%の1.00を超えている。

以上の結果から、タイ人学習者にとって漢字の数の多さにより、記憶を保持するのが最も難しいと言える。

4.1.2 学習レベル別

表2.1 学習レベル別の傾向

項目	平均値	
	高校生	大学生
①字形の複雑性	1.31 <	1.36
②字形の類似性	1.56 <	1.68
③多義性	1.61 <	1.62
④多読性	1.60 <	1.72
⑦読み方の類似性	1.61 <	1.63
⑧記憶時間が長い	1.31 <	1.32

表2.2 学習レベル別の傾向

項目	平均値	
	高校生	大学生
⑥記憶保持	1.81 =	1.81
⑤多数性	1.71 >	1.69
⑨使用困難性	1.45 >	1.31
合計	1.55 <	1.57

項目ごとの平均値を見ると、高校生・大学生の両者とも最も困難な点は「⑥記憶保持」(平均値:1.81)である。しかし、それに次いで困難とする意識が高いのは、高校生の場合「多数性」(平均値:1.71)であるのに対して、大学生の場合、「多読性」(平均値:1.72)であるというように差異が見られた。

項目ごとの大学生・高校生の回答を比較すると、大学生の方が高校生より平均値が高いのは6項目あるのに対し、高校生の方が大学生より平均値が高いのは2項目あることから、高校生より大学生の方が漢字学習を困難とする意識が高いと言える。

4.1.3 日本語能力別

表3 日本語能力別問題意識

項目	平均値					
	全体	N1	N2	N3	N4	N5
①字形の複雑性	1.34	1.30	1.27	1.29	1.35	1.38
②字形の類似性	1.64	1.50	1.69	1.63	1.73	1.57

③多義性	1.62	1.25	1.49	1.64	1.66	1.62
④多読性	1.68	1.55	1.75	1.69	1.73	1.63
⑤多数性	1.70	1.40	1.65	1.70	1.70	1.74
⑥記憶保持	1.81	1.70	1.78	1.80	1.81	1.84
⑦読み方の類似性	1.62	1.40	1.71	1.64	1.61	1.61
⑧記憶するまで時間がかかる	1.32	1.10	1.18	1.26	1.35	1.37
⑨使用困難性	1.36	1.10	1.14	1.35	1.33	1.46
合計	1.57	1.37	1.52	1.56	1.59	1.58

日本語能力別で各項目の平均値を見ると、能力を問わず、最も困難とする意識が高いのは「⑥記憶保持」(N1:1.70、N2:1.78、N3:1.80、N4:1.81、N5:1.84)であり、それに次いで困難とする意識が高いのはN1とN2が「④多読性」(N1:1.55、N2:1.75)である。N3とN5は「⑤多数性」(N3:1.70、N5:1.74)であり、N4は「②字形の類似性」と「④多読性」(1.73)である。

N1からN5までの学習者のすべての項目の平均値を見ると、N1の回答の平均値が1.37であり、他の能力レベルの学習者の回答と比べて最も低く、全体の平均値(1.57)と比較してもかなりの開きが認められ、漢字学習を困難とする意識が最も低い。これに対してN2からN5までの学習者の回答の平均値はN2:1.52、N3:1.56、N4:1.59、N5:1.58というように、能力が下がるにつれて少しずつ漢字学習を困難とする意識が上昇する傾向にあるが、顕著な差異は見られない。また、N4の回答の平均値が若干ではあるがN5より高いのは興味深い。

4.2 学習情意的側面

4.2.1 全体

表4 漢字学習に対する情意的側面

順位	評価	項目	平均値
1	+	①必要	1.94
	+	②体系的	1.94
3	+	⑥努力	1.92
4	+	⑩意味類推	1.73
5	-	⑦覚えきれない	1.64
6	-	③妨げ	1.35
7	+	⑨楽しい	1.29
8	+	④独学	1.21
9	-	⑤才能	0.97
10	-	⑧技術の進歩	0.82

全体的に平均値が1.90以上で上位を占めているのは「①漢字学習は必要」、「②体系的に学べば、覚えやすくなる」、「⑥努力すれば漢字が覚えられる」といった積極的な側面であり、平均値が1.00未満は「⑤漢字の才能がなければ、漢字が覚えられない」と「⑧技術の進歩で漢字学習が必要なくなる」といった消極的な側面である。このことからタイ人学習者は漢字学習に対して積極的な態度をとっていると言える。

4.2.2 学習レベル別

表5.1 学習レベル別学習情意的側面

積極的な側面	平均値		
	高校生		大学生
①必要	1.93	<	1.95

表5.2 学習レベル別学習情意的側面

消極的な側面	平均値		
	高校生		大学生
③妨げ	1.36	>	1.35

②体系的	1.93	<	1.95
④独学	1.01	<	1.31
⑥努力	1.91	<	1.93
⑨楽しい	1.23	<	1.32
⑩意味の類推	1.52	<	1.84

⑤才能	1.03	>	0.94
⑦覚えきれない	1.68	>	1.62
⑧技術の進歩	0.91	>	0.77

学習レベル別で見ると、積極的な側面においては大学生の場合、高校生よりすべての項目で平均値が高いのに対し、消極的な側面においては高校生の場合、大学生よりすべての項目の平均値が高い。大学生の方が高校生より漢字学習に対して前向きであり、学習が進むにつれて漢字学習に対する意識が良い方向へ変化する模様である。

4.2.3 日本語能力レベル別

表 6.1 日本語能力別情意的側面

積極的な側面	平均値				
	N1	N2	N3	N4	N5
①必要	1.95	1.98	1.96	1.93	1.94
②体系的	1.90	1.90	1.96	1.93	1.95
④独学	1.90	1.44	1.36	1.25	0.99
⑥努力	1.85	1.92	1.93	1.93	1.92
⑨楽しい	1.35	1.42	1.31	1.32	1.21
⑩意味の類推	2.00	1.88	1.87	1.83	1.51

表 6.2 日本語能力別情意的側面

消極的な側面	平均値				
	N1	N2	N3	N4	N5
③妨げ	1.30	1.19	1.25	1.41	1.41
⑤才能	0.75	0.87	0.94	0.97	1.04
⑦覚えきれない	1.45	1.37	1.61	1.69	1.69
⑧技術の進歩	0.65	0.73	0.76	0.83	0.87

日本語能力別で見ると、積極的な側面においては6項目のうち、「①漢字学習は必要」「④漢字学習は独学でも可能」「⑨漢字学習は楽しい」「⑩漢字で書かれた言葉は意味が類推できるので、わかりやすい」の4項目で、N1とN2の学習者の回答の平均値の方がN4とN5の学習者より高い。一方、消極的な側面においては、N4とN5の学習者の回答の平均値はすべてN1とN2の学習者の回答を上回っている。

以上のことから、能力の低い学習者より能力の高い学習者の方が積極的な態度をとっていると言える。

5. まとめと今後の課題

以上の分析の結果から、漢字学習はタイ人学習者にとって困難なことが明らかである。漢字の学習困難点に関して、タイ人学習者の学習レベル、日本語能力を問わず、最も難しいのは記憶保持である。また、高校生よりも大学生の方が困難とする意識が高く、日本語能力別では、能力の高いN1の学習者が他の学習者と比較して困難とする意識が最も低い。しかしながら、N2からN5までの学習者の場合、困難とする意識の度合いにはあまり差異が見られない。漢字学習に対する情意的側面に関して、タイ人日本語学習者は漢字学習が日本語学習において必要不可欠なものであり、努力して体系的に学べば習得できるという積極的な態度をとっている。学習レベル別では、大学生の方が高校生より積極性が見られ、日本語能力別では、能力の高い学習者は能力の低い学習者より積極的な態度をとっている。また学習レベル、能力が上がるにつれて意識が良い方向に変化する傾向にある。

最後に本報告では調査対象者を学習者に限定して分析を行ったが、今後は日本語教師を対象に調査し、学習者と教師の間に意識の相違があるか否かを課題としたい。

【参考文献】

- 石田敏子 (1984) 「国際化の中で漢字とは」海保博之編『漢字を科学する』有斐閣、pp. 154-190
- 加納千恵子 (1994) 「漢字の難しさ」『月間言語』23巻 5号、pp. 92-93
- ガヤトゥリ ハットトワ・ガマゲ (2006) 「非漢字圏日本語学習者の漢字学習意識に関する研究-スリランカの学習者を対象として-」『日本語科学』20号、pp. 1-11
- 清水百合 (1993) 「漢字学習のあり方に関する学習者の問題意識調査(1)」『筑波大学留学生センター日本語論集』9号、pp. 51-60
- 下瀬川慧子 (1984) 「学部留学生の漢字学習についての意識と方法-アンケート調査と座談会から」『東海大学留学生センター紀要』第5号、pp. 33-51
- ソムチャイ・チャイヤケッタナン (2008) 「タイ国内における初級タイ人学習者の漢字意識」日本語教育国際シンポジウム『東南アジアにおける日本語教育の展望』の予稿集、pp. 50-54
- 豊田悦子 (1995) 「漢字学習に対する学習者の意識」『日本語教育』85号、pp. 101-113
- ブシマキナ・アナスタシア (2013) 「JSL 日本語学習者の漢字学習に対する意識-JSL 日本語学習者へのアンケート調査を通じて-」『金沢大学留学生センター紀要』16号、pp. 45-61
- 柳田しのぶ (2011) 「非漢字圏日本語学習者における漢字学習への意識-フランスの大学生を対象に-」『JSL 漢字学習研究会誌』3号、pp. 8-13
- リドワン・ルッシー・ノワリダ (2011) 「インドネシアの大学における初級日本語学習者の漢字意識調査」『JSL 漢字学習研究会誌』3号、pp. 1-7